

# 令和2年度 兵庫県立松陽高等学校(全日制課程)学校自己評価結果及び学校関係者評価

学校自己評価												学校関係者評価		
【平均】A:よくできた(4点) B:できた(3点) C:あまりできなかった(2点) D:できなかった(1点)で数値化。 平均①:評価内容ごとの平均 平均②:実践目標ごとの平均 平均③:評価項目ごとの平均 【順位】評価内容27項目中、平均の高い順														
重点事項	年度努力事項(評価項目)	実践目標	評価内容	令和2年度				平均①	平均②	平均③	順位			活動評価
				A	B	C	D							
基本的な生活習慣の確立と基礎・基本の定着を図り、安全で楽しい学校づくりを目指す。	基本的な生活習慣を確立させる指導の工夫・改善を図る。	全教職員の意思統一が図られた指導を実践する。	1 生徒指導(基本的な生活習慣の確立)について、研修会が年1回以上実施されている。	18.4	55.3	21.1	5.3	2.87	2.74	7	○頭髪や服装におけるルールを守る気がなく、時間を気にせず自由に生活する生徒の放置が目立つ。○年々生徒指導が緩くなっている。 ○例年通り、生徒指導部と学年が連携して共通理解のもと頭髪や身だしなみの指導をおこなった。 ○共通理解はできてはいるが、校則を守らせる指導ができていない状態であったため平均値が下がった。 ○毎年行っている生徒会、PTAとの合同期の立ち番指導はコロナ禍の影響で後期のみの実施となった。 ○時間厳守の指導を徹底した。 ○いじめ問題に対して、毎学期「いじめアンケート」を実施し、丁寧な聞き取り調査を行うことで組織的な対応ができた。 ○教職員が生徒指導について問題意識を持っていることは事実であり、多くの場面でその方法や取り組みについて議論されている。決して放置してはいるのではない。	○ルールを守らないことは個性ではない。また高校生活は将来への訓練であり、理性を重んじる我慢の場でもあることを共通理解させる。 ○教職員が生徒指導の際には一貫した指導を行う。また生徒指導方法が変更した場合の共通理解を徹底する。 ○校則や指導内容を見直し、シンプルな項目にする必要がある。 ○4月に職員会議で生徒指導に対する共通理解を徹底し、引き続き指導部会や職員会議等で共通理解を深める。 ○教職員が一丸となって校則を守らせる指導ができるように、一人一人の教職員の指導力向上をめざした研修を深める。 ○今後の課題として、校則を守る、授業を受ける姿勢を向上させることを全職員で取り組み、学習指導の徹底と、生徒の規範意識の育成に取り組む。 ○教職員が共通理解を深め、取り組みを進めていくことができるように改善する。		
			2 共通理解が図られた生徒指導ができています。	2.6	28.9	57.9	10.5	2.24						
			3 いじめ問題に対して組織的な対応ができています。	21.1	68.4	10.5	0.0	3.11						
	学校と家庭との連携強化が図られた指導を実践する。	学校と家庭との連携強化が図られた指導を実践する。	4 学校HP、学校新聞、学年便り等、学校の教育活動や方針について情報発信がなされている。	31.6	55.3	10.5	2.6	3.16	2.86	2.75	1	○学校HPの更新数が少ない。 ○HPやケータイ連絡網を活用し、タイムリーに情報提供を行った。 ○コロナの影響で実施できなかった教育活動が多い。 ○様々な機会を通して家庭への電話連絡等を行うことで、保護者とコミュニケーションを取った。	○全教職員で取り組んでいき、更新方法について研修会を開く。 ○担任の負担を考慮しつつ担任と保護者の連絡を密できるように、協力体制を構築する。 ○今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、保護者と教職員が行事等において協働を行うことができなかった。	
			5 家庭連絡や家庭訪問、PTA活動を通して、保護者との情報交換や意志の疎通が図られている。	18.4	63.2	18.4	0.0	3.00						
			6 教職員と保護者が協働して、教育活動や行事が実施されている。	2.6	47.4	39.5	10.5	2.42						
	生徒のマナーや規律・規範意識の高揚を図る。	生徒のマナーや規律・規範意識の高揚を図る。	7 学校行事やホームルーム、生徒会活動等を通して、マナーや規律、規範意識を高める取り組みが行われている。	5.3	47.4	39.5	7.9	2.50	2.67	22	○生徒指導・生徒会を中心として日々の登下校の立ち当番を行い、生徒の挨拶や交通ルールへの意識向上への取り組みができた。 ○指導すると一旦は良くなるが、またすぐに元に戻ることが多い。 ○コロナの影響で、生徒会活動や全校集会が実施できず、生徒の規範意識向上に向けて注意喚起できる機会が少なかった。 ○生徒指導部を中心とした朝の立ち番指導、下校指導をはじめ、あらゆる教育活動を通してマナーや規範意識を高める取り組みを積極的に行った。 ○登下校の苦情等もいくつか寄せられたが、多くは保護者の車の送迎に関する事だった。 ○マナーや規律に関して日常的に周知徹底することが大切である。	○地域から本校への交通マナーに対する苦情には「道路は車優先で、自転車歩行者は邪魔」の内容が多かったが、生徒たちには地域において「弱者優先」の意識を高めていくよう指導する。 ○生徒指導をする際に、生徒の動きを止めさせ、しっかりと話を聞かせる指導をおこなう。 ○全教職員で朝の立ち番を実施し、ルールをも守れない生徒には厳しい指導を徹底することも必要だ。 ○マナーや規範意識の根本はこれまでの家庭生活によるものが大きいので、ある程度は家庭にかえすべきである。 ○朝の立ち番指導や下校指導は引き続き実施する。 ○生徒会活動のあいさつ運動がコロナ禍の影響で実施できていないため、来年度は実施していく。 ○生徒のマナーや規範意識を高めるために家庭と連携して学校側から発信を多くしていく。 ○マナーや規律、規範意識を高める取り組みを行っていないのではない。行っているが、その成果を教職員が実感できていないことがこの評価となった。ここに関しては自己評価が低いことが当然であり、今後も教職員が粘り強く取り組んでいく決意の表れであると考え、来年度に生かす。		
			8 立ち番指導や電車内指導などを通じて、通学マナーを向上させるための取り組みが行われている。	26.3	52.6	18.4	2.6	3.03						
			9 生徒のマナーや規範意識を高めるため、家庭や関係機関と連携した取り組みが行われている。	5.3	42.1	47.4	5.3	2.47						
分かる授業、楽しい授業を展開し、基礎学力の定着を図る。	分かる授業、楽しい授業を展開し、基礎学力の定着を図る。	10 授業研究など学習指導について「アクティブラーニング」の観点を取り入れるなど工夫・改善がなされている。	5.3	57.9	28.9	7.9	2.61	2.60	2.70	20	○新型コロナウイルス感染症の影響で活動が自粛されたため、約3割程度しか活動ができなかった。 ○校外の活動や研修についてはコロナの影響で実施できなかった。 ○授業の一般公開は実施できなかったが、秋にはすべての教科で教職員間の公開授業(研究授業)が実施できた。タブレットやプロジェクタを活用した授業もあり、積極的にICTの活用を進めている教職員もいる。	○本格的な活動は予防接種が満遍なく実施された2学期以降になる可能性があるが、来年度は例年通りの活動を推進する。 ○令和4年度からスタートするBYOD(Bring Your Own Device)導入に向けて、来年度は準備期間として校内研修及び導入準備等を推進する。		
		11 一般公開も含めた授業公開が、各教科において実施されている。	10.5	57.9	26.3	5.3	2.74							
		12 校外研修会に参加するなど、学習方法や教科指導の工夫改善が図られている。	7.9	42.1	36.8	13.2	2.45							
		13 個に応じた多様な学習指導が実施されている。	21.1	60.5	18.4	0.0	3.03							
		14 課題や宿題の指導を通して、家庭学習の習慣化を図っている。	5.3	42.1	42.1	10.5	2.42							
		15 基礎学力の定着や資格取得のための補習が実施されている。	18.4	55.3	18.4	7.9	2.84							
生徒の興味・関心・進路に応じた教育活動を展開する。	生徒の興味・関心・進路に応じた教育活動を展開する。	16 総合的な探究(学習)の時間では、「生きる力」「キャリア教育」を意識した教育が行われている。	7.9	60.5	23.7	7.9	2.68	2.75	17	○幅広い学力層と個々の進路希望に合わせたカリキュラムの設定において、困難な面もある。 ○今年度は、「総合的な探究(学習)の時間」委員会と、授業担当者の役割分担が整理されたため、少しずつではあるが内容も充実したものになってきているのではないかと。 ○定期的に開かれる教育課程委員会において、生徒の現状や進路状況をふまえて、丁寧にカリキュラムを検討し決定できている。	○教員定数の問題もあるが、習熟別授業を展開するなどの改善を検討する。 ○普通科(地域スポーツ類型)や商業科、生活文化科の授業では、積極的に外部人材を活用しており、そのまま継続していくべきである。 ○新学習指導要領におけるカリキュラムマネジメントを実施して、幅広い学力層、進路希望に対応するためにカリキュラム編成を行い、選択科目の授業展開を工夫する。			
		17 生徒の進路希望に応じたカリキュラムや多様な選択科目が設定されている。	13.2	55.3	26.3	5.3	2.76							
		18 地域の人材や素材を活用した特色ある授業の取り組みが行われている。	15.8	52.6	26.3	5.3	2.79							
望ましい人間関係を築き、生徒の生命と財産が守られ、差別のない安全な学校環境を構築する。	望ましい人間関係を築き、生徒の生命と財産が守られ、差別のない安全な学校環境を構築する。	19 クラスの中で、他人を馬鹿にしたり、からかったりせず、互いを認め合う好ましい人間関係が築かれている。	7.9	57.9	34.2	0.0	2.74	2.82	14	○委員会活動・清掃活動・部活動等で活動している生徒が殆どいない。 ○個々の生徒に対して、かなり細やかに対応している。 ○担任を中心に生徒のちょっとした変化に機敏に対応しているが、そのことかなりの時間を割いている。	○生徒の放課後の活動が、アルバイト・遊び等に使われている状況があるが、部活動や生徒会活動、ボランティア活動にも積極的に取り組ませる。 ○部活動の全員入部を徹底させることも検討する必要がある。 ○教職員が「生徒がこうなってほしい」という願いや思いを持って継続した一貫した指導を行う。			
		20 生徒一人ひとりにとって、役割や活躍する場が、様々な教育活動の中にある。	13.2	36.8	47.4	2.6	2.61							
		21 生徒の個人面談や日頃の声かけ指導等ができています。	23.7	65.8	10.5	0.0	3.13							
		22 避難訓練や交通ルールを遵守する指導等、参加型・体験的な教育活動が実施されている。	5.3	28.9	52.6	13.2	2.26							
		23 防災教育や安全教育が、学校全体はもとより学年行事やホームルームで行われている。	10.5	55.3	28.9	5.3	2.71							
人権教育を充実させ、人権意識の高揚を図る。	人権教育を充実させ、人権意識の高揚を図る。	24 地域の関係機関や外部講師を活用して、生徒の防災意識、安全意識の高揚が図られている。	5.3	52.6	28.9	13.2	2.50	2.49	2.68	15	○防災マニュアルが充実している。また総合学習における防災の取り組みも充実していた。 ○新型コロナウイルス感染症の影響で活動が自粛されたため、約3割程度しか活動ができなかった。 ○他の項目と同じくコロナの影響があり実施できなかった。	○災害が発生した際はマニュアル通りにはいかない面もあり、実際の訓練が必要となる。 ○コロナの影響がなくなり、行事等を実施することで改善できる。		
		25 人権教育が3年間を見通した年間指導計画に基づき、計画的に実施されている。	5.3	55.3	34.2	5.3	2.61							
		26 人権意識を高めるための職員研修会が、計画的に行われている。	7.9	65.8	26.3	0.0	2.82							
		27 講演会や映画会等を通して、生徒・職員の人権意識を高める取り組みが行われている。	10.5	60.5	26.3	2.6	2.79							
職員満足度	28 今年度の本校でのご自分の取組みに対して満足している。	13.2	44.7	39.5	2.6	2.68	2.68	2.68	16	○年度当初に各自で設定している目標達成に向けて、満足度、達成感を感じることができるよう、組織的に取り組む。 ○目標を明確にすることとともに、周囲との情報共有を確実にして、協働して取組むことができる環境を整備する。 ○取り組みの結果(=生徒の様子)から自己評価が低くなっているが、決して本校の教職員がやるべきことをやっていないのではない。どの先生も頑張っていると思う。今後もお互い評価し合いながら粘り強く取り組む。				
平均				12.1	52.7	29.6	5.6	2.71			学校への提言			